

当院で作成した ESA 製剤調整フローチャートを用いた ESA 製剤投与量の管理

医療法人衆和会 長崎腎病院

○高木伴幸 矢野利幸 林田征俊 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【背景】

当院では、2011 年から日本透析医学会が提唱している慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドラインに基づいて ESA 製剤調整フローチャートを作成し、そのフローチャートに基づいて月 2 回定時検査後臨床工学技士による ESA 製剤増減の調整を行っている。

【目的】

今回エポエチン ベータ ペゴルまたはダルベポエチン アルファからエポエチン カッパに変更を行い、ESA 製剤調整フローチャートに基づいて ESA 製剤増減を行った結果エポエチン カッパの使用量がどのように変化したか 18 ヶ月期間の結果よりその有用性を検証する。

【対象】

当院の維持透析患者 90 名 (男 45 名、女 45 名、平均年齢 73.0 歳 $\pm$ 11.2 歳)

【結果】

ESA 製剤変更後、1 人当たりの週平均投与量が 8066.7IU が 3 ヶ月後 7000.0IU まで低下しその後は 6874.7IU $\pm$ 169.5IU にて推移した。血色素量は変更前 10.4g/dl、変更後 10.6g/dl $\pm$ 0.1g/dl にて推移した。

【考察】

今回、当院で作成した ESA 製剤調整フローチャートを用いて ESA 製剤投与量の増減を行い、血色素量に変化は見られず、エポエチン カッパの使用量が変更 3 ヶ月後約 15.2%削減されその後使用量が増えることなく推移したので当院で作成した ESA 製剤調整フローチャートは ESA 製剤削減に有効であると考えられた。